

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働組合](#) | [組織活動](#) | [労働組合をつくろう \(実践編⑨\)](#) | [労組結成阻害化要因](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[組織活動](#)[組織運営と法律](#)[労働安全衛生](#)[経営対策活動](#)[教育・宣伝活動](#)[労働時間をめぐる諸問題](#)[教育活動](#)[選挙活動](#)[組合組織（公務員）](#)[教育カリキュラム](#)[▶ キーワード検索はこちら](#)

労働組合をつくろう (実践編⑨)

労組結成阻害化要因

組織化を躊躇させる理由とは

労働組合を結成するのは、労働者の社会的権利として、憲法で保障され法的（労働組合法）に規定されています。当たり前のこととして、自由に設立することができるのです。

しかし、なかなか組織化は進みません。何故でしょうか。労働者にその気がないのでしょうか。労働組合の価値や、その活動が分からないからでしょうか。それもあるでしょうが、大きな原因の一つとして、会社が労働組合をどう見ているか、にあります。

労働組合とは、会社の利益にならない有害なものと思われるとすれば、会社に睨まれることはしない、と行動にブレーキがかかるでしょう。

現代の社会では、一般論として「労働組合」を頭から否定する経営者は基本的にいませんが、当社には出来れば結成されたくない、総論賛成各論反対の立場が経営者の本音かも知れません。

同時に、労働者自身がこのような会社の姿勢を読み取り、日常の努力を怠っているとも言えます。特に既存の労働組合は、労働組合の社会的使命、役割を果たさなければなりません。組織化から得られる活動の成果は、民主主義社会の発展、企業の健全な発展、労働者の幸福をもたらすものであるはずですが、

であれば、そのことを日常的にアピールして、会社経営者の組合アレルギーを解く努力が必要なのです。会社経営者の労働組合観、労働者自身の組合観を「民主的な労働運動を基本理念とする」労働組合観に一致させることが必要なのです。このようなうねりを起こすためにも、組織化の組織的取組みが必要なのです。

私たちは、「内なる敵を排し、後顧の憂いをとく」時代を迎えているのです。その努力なくして組織化の前進はありません。そのために、具体的にどのような活動をするのか、新たな課題です。

リーダーは、労働組合のあり方について、ちゃんと認識し、企業パートナーとして活動する健全な労働組合観を社会的に強調し、会社経営者の組合観を変えていかなければなりません。

そのためには、労使の共通の害となる、左翼的労働組合観や従属的労働組合観（外部団体の支配を含む）を一掃する取り組みも不可欠です。このような活動の中で、健全な労働組合観が醸成され、アレルギーの解消へとつながって行くものです。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

